



弘大農学部同窓会会報

第10号

平成元年 6月30日発行
 発行 弘前大学農学部同窓会
 TEL. 0172-36-2111
 振替 盛岡4-564番
 印刷 青森コロニー印刷



弘前大学農学部の 発展を支援する

同窓会会長 岩井 邦彦

(弘前市都市計画部長)

農学部の卒業生は2,887名に達し、今や全国各地で広い分野に活躍されております。同窓会も発会以来30数年も経過しますと、世帯も大きくなり支部組織も拡大して、今では県内支部として青森、弘前、南部、南黒、五所川原、下北の6支部、県外支部としては北海道、関東、岩手、秋田、山形、福島の6支部、合計12の支部があります。

弘前大学には教養部を除いて5学部がありますが、農学部は歴史が浅くても同窓会としては最もよくまとまり、活動していると評価されております。我が農学部同窓会が、母校の拡充発展と同様、より充実することを願うものであります。

同窓会の事務局は、卒業生在職教官の方々を担当して頂き大変ご苦勞をおかけしておりますが、毎年の会報発行の他、2年に1回同窓会名簿を発行しております。また、10年に一度位は全国に居る同窓生が母校に集まるような記念事業も企画したいものだと考えております。

私が卒業したときは農学部が昇格したばかりで、農学科の1学科のみで同期生は22名、教官の数と学生の数がほぼ同数でした。今では4学科、1学年145名と言う大世帯になり、大学院修士課程も設置され充実拡大が進められて参りました。

次の段階として、当面は単独での大学院博士課程の設置は望み薄すとの判断から、岩手、弘前、山形の3大学による連合大学院構想が田辺学部長先生を先頭に進められ、平成2年度から発足しようとしております。

また近年、経済高度成長に伴う産業界の変容、国際化の進展、科学技術の進歩が著しく、農学部に対する社会の要請は、既往の農学教育・研究の範囲を越えるに至っております。母校ではこれに対応するため、農学の総合化をはかり、弾力的かつ柔軟に対応し得る体制を整え、地域と密着し、しかも国際的視野に立った農学を目指そうとしています。具体的には生物工学・情報科学の進歩に対応し得る教育・研究に重点をおいた大講座制への改組であります。岡山など12大学の農学部はすでに改組済みであります。弘前大学も現在、平成2年度の概算要求に間に合わせるべく、教授会で連日協議検討を重ねているところでございます。

同窓会としては、母校の発展拡充によって教育研究体制が整い、社会のニーズに対応できる優れた後輩が育成されることを祈り、早期実現すべく積極的に支援して参る所存であります。改めて同窓生諸兄のご理解とご協力をお願い申し上げる次第です。

卒業おめでとう

去る3月23日63年度の卒業式が行われましたが、同窓会は卒業された129名の皆さんを新しく正会員として迎えるために、特別会員の照井睦夫、高安一郎、佐々木信介そして今河英男の諸先生方に御出席を頂き盛大な歓迎会を催し、農学部長はじめたくさんの方からお祝いと励ましの言葉を頂きました。また新正会員を代表して、金田正君と浅利成就君から御礼と決意の言葉がありました。

卒業を祝して

御卒業、御修了を心からお祝い申し上げます。併せて農学部同窓会への入会を歓迎申し上げます。

さて、先輩の一人として一言申し上げてみたいと思います。皆さんは、幸運にも平成元年と言う大変いい記念となる年に卒業された訳ですが、これからの時代は先行きの見通しがきかない、不透明な時代だとも言われております。

時の流れはいやが上にもスピードアップしており、その急激な変化に、機敏に対応することが求められています。技術革新や高度情報化社会は、世界中の各国を時間距離的に接近させ、地球規模での相互依存性を強めています。東北地方だ日本国内だと言うような狭い考えは通用しない国際化の時代です。

例えばECブロックとか、アメリカの政策が直ちにわが国の政策変更を要請する形となって現れております。最近ワシントンポスト紙の米国民世論調査で、日本は世界最強の経済大国になった、日本の経済力の方がソ連の軍事力より脅威だとされています。それだけ、わが国の責任が重くなっているわけです。

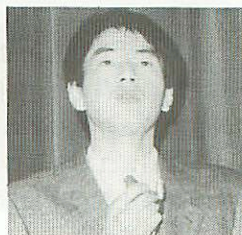
また、もう一つの大きな特徴として、高度情報化の波があります。そこでは情報を作り、発信する産業が急成長し、コンピューター技術者が今後更に不足するようであります。

リクルート事件もこのような時であったことから生じたものとも言えると思います。従って、これからは、私達も情報を買って生活

同窓会会長 岩井邦彦

する世の中に生きることになりますから、その情報を上手に選択して買い、それを利用活用できる人が有能な人材だと言えることになる訳であります。どうか弘前大学農学部の卒業生としての誇りを持ち、この国際化・高度情報化時代で充分にご活躍されますよう祈って居ります。

最後になりましたが、私のお祝いの言葉に代え「後々になって、大変大きな配当を生み、あなたの幸せを確かなものとし、社会的地位を確保できる条件づくりのため、あなたと、あなたの家族の健康への投資と、家庭円満への投資には、おしみなく」と申し上げ、お祝いと歓迎の挨拶と致します。おめでとうございました。



新しく迎えた会員の皆さん

農学科 (17名)

農学コース (10名)

- 小笠原聡彦 (作物)
 竹田理恵子 (作物)
 若宮 英夫 (作物) 黒石地区農業改良普及所
 日高 良平 (作物) 日本ベーリンガーイン
 グルハイム(株)
 阿部 知恵 (育種) 茨城県水戸地区
 農業改良普及所
 腰巡 好之 (育種) 青森県中南地方農林事務所
 福田 典明 (育種) 青森食糧事務所
 山下 通子 (育種)
 和野 重美 (育種)
 三上 孝利 (畜産) 弘前大学大学院農学研究科

経済コース (7名)

- 大場 明彦 (流通) 北海道開発局
 室蘭開発建設部
 下山 禎 (流通) 弘前大学大学院農学研
 山下 望 (流通) 農林漁業金融公庫
 田口 嘉浩 (経済) 弘前大学農学部研究生
 寺澤 直人 (経済) コニカ(株), システム 管理部
 河内 茂 (経済) 日本生活協同組合連合会
 若林 誠 (経済) (株) C. S. K

園芸学科 (23名)

- 赤川 恵子 (植病) 日本生命相互会社
 札幌支社
 漆原 昌二 (植病)
 小川 正 (植病) 社団法人
 日本植物防疫協会
 平門 隆良 (植病) 北海道開発局
 舟山 健 (植病) 秋田県果樹試験場
 味野和勝彦 (植病) 弘前大学農学部研究生
 平井 和久 (植病)
 清水 徹 (昆虫) 弘前大学大学院農学研究科
 松田 正利 (昆虫) 弘前大学大学院農学研究科
 三上 隆 (昆虫) 弘前大学農学部研究生
 大古場伸子 (蔬花) 北海道大学農学部研究生
 神原 幸雄 (蔬花)
 木村 俊夫 (蔬花) エディ造園設計事務所
 古田島俊憲 (蔬花) 新進食料工業(株)
 佐野 敦子 (蔬花)
 西村 浩美 (蔬花) 東北農政局
 福島統計情報事務所

- 東 新一 (蔬花) 青森県立名久井
 農業高等学校
 半田 三枝 (蔬花)
 岩崎 剛 (果樹) 中村製作所
 内山 真人 (果樹) 青森県十和田地区
 農業改良普及所
 齋 亨 (果樹) 自営業 (農業)
 白坂 弘行 (果樹)
 長尾 吉洋 (果樹) 青森県西地方農林事務所

園芸化学科 (40名)

- 石原 味佳 (園利) NTTシステムサービス(株)
 江口 優一 (園利)
 柿崎 友良 (園利) ニッカウイスキー(株)
 葛西 大介 (園利) よつば乳業(株)十勝工場
 加藤 竹雄 (園利) 秋田県横手
 農業改良普及所
 金田 綾緒 (園利)
 川村 公明 (園利) 秋田酒類製造(株)
 倉林 悦子 (園利) 北海道教員 (中学校)
 栗原 大輔 (園利)
 黒子 秀子 (園利) 東北日本電気
 ソフトウエア(株)
 佐々木いづみ (園利) 弘前大学大学院農学研究科
 八幡 優 (園利) かねさみそ(株)
 山口 秀明 (園利)
 加藤 望 (生化) 弘前大学大学院農学研究科
 小林 弘嗣 (生化) 田辺製薬(株)
 野仲 学 (生化) 農林水産省農薬検査所
 福良 浩幸 (生化) (株)日本電気情報サービス
 細田 洋一 (生化) 弘前大学大学院農学研究科
 丸山 実保 (生化)
 矢内 浩二 (生化) 弘前大学大学院農学研究科
 渡部 智子 (生化) (株)北一硝子
 山田 知子 (生化) (株)シーイーシー
 田高 幹也 (生化) 小岩井農牧(株)小岩井農場
 草薙 秀典 (農利) 千秋薬品(株)
 酒井 裕司 (農利) 環境開発研究所
 塩崎 裕治 (農利) 持田製薬(株)
 芝野 裕子 (農利) 日本サーフェクタント工業(株)
 下山 一之 (農利) キリン・シーグラム(株)
 仙台勤務
 菅原 秀喜 (農利) 雪印乳業(株)
 鈴木 雅人 (農利)
 横田 善郎 (農利) 持田製薬(株)

横山 隆 (農利) 青葉化成(株)
 種市 順司 (土肥) 弘前大学大学院農学研究科
 野沢 智裕 (土肥) 青森県農業試験場
 松本 等 (土肥) スタミナ食品
 間山 克朗 (土肥) 日本ハム(株)
 石橋 紀也 (土肥) (株)ニチエー
 楠目 俊三 (土肥) 北海道中央農試
 生物学部
 八重樫耕一 (土肥)
 清水 智之 (土肥)

農業工学科 (41名)

農業機械コース (15名)
 青山 勝信 (機械) 通商産業省
 阿部 誠 (機械) 皆瀬村役場
 梅村 政史 (機械) 豊田市役所
 小野寺耕三 (機械) M. S. K 東急機械
 金田 正 (機械) (株)アベックス
 佐藤 亮 (機械) 三川町役場
 湯浅 信雄 (機械) 前川製作所(株)
 木村 心 (機械)
 北浦 憲 (動力) エセックス日本(株)
 西川 裕之 (動力) 弘前大学大学院農学研究科
 広恒 圭一 (動力)
 松本 裕之 (動力) (株)三貴
 吉村 一男 (動力) 福田屋百貨店
 中村英一郎 (動力) 伊藤忠建機(株)
 川畑 達彦 (動力) 主婦の店

農業土木コース (26名)

伊藤 利明 (造施) 岩手県土地改良区
 門脇 健 (造施)
 叶田威希郎 (造施) (株)H. C. C
 木村 裕介 (造施) ケミカルグラウト(株)
 古川 達也 (造施) 日本道路(株)
 斎藤 伸裕 (造施)
 佐竹 博光 (造施) (株)倉元製作所
 竹谷 文孝 (造施) 東北農政局田畑開拓
 建設事業所
 佐久間淳雄 (造施)
 伊香 学城 (水利) 太陽コンサルタンツ(株)
 工藤 修 (水利) 扶桑建設工業(株)
 長岡 禎智 (水利)
 福崎 晴康 (水利) 青森県西土地改良事務所

八木橋信也 (水利) 東北農政局追川上流
 農業水利事業所
 今泉 元伸 (水利)
 中村 泰幸 (水利) NTTシステムサービス(株)
 玉村 幸一 (水利) 長野県松本地方事務所
 川崎 智之 (農地)
 館山 和浩 (農地) 日本道路公団
 福岡 誠志 (農地)
 工藤 俊之 (農地)
 田邊 仁志 (農地) 神郷町役場
 谷口 幸二 (農地) 東芝空調(株)
 横山 勲 (農地) 北松山町農業協同組合
 横山 学 (農地) 小松ソフトウェア開発(株)
 太田 節蔵 (農地) 東急設備(株)

大学院 (8名)

農学科 (2名)
 鎌田 正敏 (畜産) 農林水産省試験場
 佐治 実 (経営) 日本文化厚生農業協同
 組合連合会

園芸化学 (2名)

佐藤 陽介 (園産)
 小笠原敦子 (農産) 三戸地方農林事務所

園芸学科 (4名)

浅利 成就 (蔬・花) 三本木農業高等学校教員
 佐々木将人 (植病) 弘前大学大学院農学研究科
 研究生
 佐山 玲 (植病) 北海道大学大学院農学研
 究科博士後期課程
 藤林 佳子 (昆虫)



思い出を残して

昭和63年度は岡本先生が退官され、三国先生が広島大学に転任されました。多くの同窓生に対する暖かいご指導ありがとうございました。

弘前を離れて

岡本辰夫

37年余りの弘前で生活に別れを告げ、5月末に、生れ故郷の東京に戻りました。

引っ越しというものは非常に大変なものだと痛感しています。弘大での自分の居室の整理に約1か月かかりました。教室での卒業生の中には「先生の部屋は本当に片付くのだろうか」と、日頃の雑然とした状況を良く知っているのに、本当に心配してくれる人たちもいましたが、どうやら一人でがんばりました。

次は4月からのわが家の整理です。持屋を売ることも含めて37年の垢を流しおとすことに2カ月近くかかりました。物質的に捨てきれないものも多くコンテナ2台分の荷物が東京に到着しました。一応23坪はあるのですが弘前の一軒屋とちがって物置がないので、一部屋は現在物置同然となっています。でも荷ほどきは一刻をあらそわないので、多少心のゆとりもあり、半月近くで大分落着いてきつつあります。昭島駅は中央線の立川から10分足らずで、駅から歩いて10分弱で新居に到着します。11階建の高層住宅群で、その中の10階に住んでいます。梅雨になりましたが、早朝には涼しい風が入ってきて、鳥のさえずりも聞こえます。ただ横田基地が近くにあるので、時々、ヘリコプターの姿や音を見聞します。テレビの受信料が半額との話ですが、画像や音声に障害が入らないので、ちょっと得をした感じです。晴れた日には遠くに富士山も眺められ、のんびりと日々をすごせそうです。でも、荷物の整理がすんだら、老化を防ぐため、何か始めようと思っています。いわゆる第2の人生です。

昭島駅のそばにイトーヨーカドーがあり、食品売場の配置などが似ているので、弘前の

ムードが引きつがれています。リンゴは、ふじの中玉が5～6個数百円で売られています。がまだ買っていません。そのうちリンゴが食べたくなったら買うつもりですが、弘前ではリンゴを数個単位で買うことはほとんどないので、ちょっととまどっています。どの位おいしいかは多少興味があります。果汁はもともとオレンジの方が好きなので、リンゴジュースは高いし、全く買う気がありません。リンゴジュースは甘すぎるし、重い感じですね。もっと爽快感を出すことが必要のように思っています。シールドはどこで売っているのか、さっぱり目につきません。そのうち、あちこち探してみます。要するに、大都会はいろいろのものがたくさん売られ、またどんどん変わるので売りこみが大変ですね。地方育ちの人が東京にきて、慣れるまで苦勞するのが少し判りました。もっとも、私はすっと入りこめますが。

何か弘前が非常に遠くなってしまった今日この頃ですが、この文を書きながら弘前の風物を思い出しています。

同窓会の皆様のご活躍、御多幸を心からお祈り申し上げます。

[新住所] 〒196 東京都昭島市つつじが丘
2-5-17-1002

[電話] 0425-45-1136



転勤のご挨拶

若葉薫る季節となりましたが皆様お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、私は4月1日より広島大学生物生産学部に転勤いたしました。昭和48年9月に赴任してから弘前大学農学部で15年半という期間を勤めさせていただきましたが、私にとってこの期間が大変短かく感じられます。というのも、農学部は民主化されたといっても自由な職場であったし、また、学科間や講座間の交流も盛んで、大変気持ちよく教育研究に携われたことによるものと思います。これもひとえに農学部の先生方、同窓会の皆様の温かいご支援の賜でありまして、ご厚情に心からお礼申し上げます。

農学部で農産物流通論講座が新設されたのを契機に私が赴任したのですが、この分野での研究を半ばにして転勤することになり申し訳ない気持ちであります。15年をふりかえてみますと、やはり毎年新しく入って来る新鮮な感覚と問題意識をもった学生と接することができ、講義、演習、農村調査、卒業研究などを通して、農業・食糧問題をともに考えられたことはとても幸せなことでした。また、農業経済の先生方ばかりでなく、他コースや他学科の先生方とも、共同研究をする機会が

三 国 英 實

多く得られたことは本当に有難いことでした。さらに学外の同窓会員の皆様をはじめ、多くの人達の協力を得ながら、地域に足を運び、農業・農協問題や流通問題の研究を進めることができ、大変助かりました。このようにおかげ様で弘前大学では実に多くのことを学ぶことができ心から感謝いたします。

広島大学生物生産学部では食糧流通学研究室を担当することになりましたが、弘前大学で学んだ経験を生かしながらまた心を新たに頑張るつもりであります。とはいっても、地域の農業基盤の崩れは東北より進行しており、中国地方はとくに農村の過疎問題が深刻です。そうした中で地域に根ざした農業・流通研究をできるだけ追求したいと考えておりますので、今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

西日本にはまだ同窓会の支部が結成されていないようですが、今後会員が拡大するにつれて結成の可能性もでてくるものと思います。西日本支部結成の際には是非その一員に加えて下さい。

では未筆ながら弘前大学農学部と同窓会のみまますのご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



◆ ◆ ◆ 支 部 だ よ り ◆ ◆ ◆

—— 福島支部総会盛大に開かれる。 ——



安い料金で新鮮な野菜料理が食べきれないほど出て来ることで有名な相馬市岩子を舞台に、第9回福島支部総会が昭和63年10月22日に開催されました。

我が支部は総勢40数名を数え毎年総会を開くのを恒例としていますが、今回は18名の参加者の他、大学から長谷部教授の出席を得、総会の幕開けとなりました。長谷部教授による大学の近況報告、そして参加者各々の近況

報告と進行していくも、酒量はいっこうに進まず静かな宴会となり、(もう少し盛り上がってもらわないと困るな、酒もたっぷり用意したのにな)と思ったのもつかの間、自己紹介が終わった途端、「幹事酒ないぞ」の一言を合図に一気に盛り上がり、飲むわ々、宴会場から部屋へと場所を換え、予定していた酒はオーバー、深夜まで弘前での思い出話が続きました。

次の日、疲れた顔で起きてきた面々が、朝食からのウナギのかば焼きにまた元気を取り戻し、相馬中村神社(はね駒で有名)、石仏で有名な百尺観音の観光を終え、無事修了となりました。

今年は第10回の記念大会を迎え、ますます意気上がる福島支部ですが、今後も弘大で学んだ事、数々の思い出を忘れず、この会を続けて行きたいと思います。

(支部長 松本 馨, 幹事 土崎 真)

◆ ◆ ◆ 定 期 総 会 報 告 ◆ ◆ ◆

定期総会が、5月27日に黒石市松安閣で名誉会長の田辺農学部長を迎えて開催されました。昭和62・63年度の事業・会計報告と平成元・2年度の事業計画・予算の審議が行われ、つづいて役員と幹事の一部が改選されました。

昭和62・63年度

1. 事業報告

- (1) 会員名簿63年版作成, 63年11月発行
- (2) 会報8号, 9号の発行
- (3) 新正会員歓迎会の後援
- (4) 秋田支部, 福島支部(2回)への支援
- (5) 母校の環境整備, 連合大学院設置支援

2. 決算報告

収入の部

項目	取 入 額	摘 要
繰越金 (60, 61年度)	1,289,747 ^円	
一般会費	2,954,450	62, 63年度(1,001名) 2,950円×971名 3,000円×30名
入会金	837,150	62, 63年度(168名) 4,950円×157名 5,000円×11名
広告料	209,150	17件 振替 94,150円 現金 115,000円
その他の取入	15,550	記念誌売上, 高安先生 (寸志)
利息	57,338	中国ファンド, 郵便貯金
合 計	5,358,385	

支出の部

項目	支出額	摘要
会員名簿	1,163,900 ^円	63年度版(63年11月30日)
発行費		576円×1,400部)
会報発行費	649,284	8号9号発行 (61, 62年6月30日)
新会員歓迎費	460,000	卒業祝賀会, 記念写真 (2回)
支部後援費	500,000	秋田, 福島(2回)支部会
母校環境	200,000	樹木移植, 整枝作業他
整備費		
会議費	238,000	62, 63年度役員会, 総会
庶務・管理費	590,188	名簿管理料, アルバイト 謝礼金, 事務用品代
通信・印刷費	200,000	総会案内葉書他
学部援助金	200,000	連合大学院設置
慶弔費	41,910	中村俊也氏, 平山弘美氏 森田先生, 中村良三氏 逝去
予備費	794,000	
合計	5,358,385	

収入の部

項目	収入額	摘要
繰越金 (62, 63年度)	1,377,163 ^円	
一般会費	3,000,000	3,000円×1,000名
入会金	1,000,000	5,000円×200名
広告料	150,000	10,000円×15件
利息	50,000	
合計	5,577,163	

支出の部

項目	支出額	摘要
会員名簿	1,500,000 ^円	平成2年度版(1,500部)
会報発行費	700,000	10号, 11号(2回発行)
新会員歓迎費	500,000	卒業祝賀会, 記念写真 (2回)
支部後援費	500,000	宮城支部発足他
母校援助費	400,000	大講座制, 環境整備等
会議費	300,000	平成元年・2年度役員会, 総会他
庶務・管理費	700,000	名簿管理料, アルバイト 謝礼金他
通信・印刷費	500,000	総会案内葉書印刷他
予備費	477,163	
合計	5,577,163	

平成元・2年度

1. 事業計画

- (1) 会員名簿2年版作成, 2月11月発行する。
- (2) 会報8号, 9号の発行。
- (3) 新正会員歓迎行事を後援する。
- (4) 新支部創設を支援する。概設支部の活動を支援するため教官, 役員を要請に応じて派遣する。
- (5) 母校の環境整備, 学部改組のために援助費を支出する。

2. 予算計画

3. 新年度役員の改選

	旧	新
会計監事	中村良三	s 33 成田常雄(柏木農高)
評議員	成田常雄	s 48 福土有一(五所川原農高)
	鎌倉二郎	s 50 川嶋浩三(りんご試験場)
幹事会計	藤田 隆	s 38 工藤啓一(弘前大学)

★ 計 報 ★

弘前支部長の中村良三氏(s 33年卒)が平成元年3月逝去されました。氏は長年にわたり同窓会の役員として発展に寄与されました。ここに謹んで御冥福をお祈りします。

教室だより

* 農産物流通論講座 *

当教室は1973年(昭和48)に設置され、田辺良則(1983~84年教授;現学部長)、三国英実(1973~84助教授・1984~89教授;現広島大学生物生産学部教授)、神田健策(1984~89助教授;現教授)の体制で研究と教育に当たってきました。三国先生はこの4月から広島大学に移られたことから現在、神田が一人いるのみですが、只今助教授を公募中でまもなく決定される予定となっております。

このようなことから神田は現在、落ち着かなく、また多忙な生活を強いられております。しかし、今年から大学院修士課程に進学者が一名おり、熱心に研究に励んでおり若い力のエネルギーを発揮しております。その院生に引張られるごとく4年目の卒論ゼミ生もそれぞれテーマ(「農民的農産加工と地域農業」「消費者運動と生協」「戦後農政下における農協事業・組織の展開」「地域づくりにおける農協の役割と課題」「青森県における農協共販の現状と課題」、以上5名)を抱え、「農業経済コース」の「厳しい」卒論審査を通るべく奮闘しています。

また、神田は今年コース主任ということも

あり、学生の就職対応にも追われております。4月以降、各企業から就職の依頼が続いていますが、その中で感じることは我が国産業構造の変化を反映してか、いわゆるソフト会社からの求人が特に目立ちます。そのみならず公務員関係からの求人もあり、今年の学生は超売り手市場にある事を感じています。

さて、当講座はこれまで農産物の市場問題と価格問題を主題として研究と教育を進め、具体的には商業的農業の展開と主産地形成、農産物の市場構造と商業資本の機能などをテーマに理論的・実証的な研究をつみかさねてきました。これからはそれらの業績をふまえ、農産物流通における協同組合(農協と生協)の役割を地域の実情に即して解明しなければならないと考えております。

今日、国内農業及び青森県農業をめぐる情勢は農産物の自由化、農産物価格の低迷などが続く中で、これまでになく厳しい状況下に置かれています。当講座はこのような困難な時期にこそ展望が切り開かれるような学問と現場に強い学生を送り出すことを目標に努力するつもりでおります。(K・K.記)

* 園芸産物利用学講座 *

リンゴの花の季節も終わり、1年中で一番しのぎ安い季節となりました。卒業生の皆様におきましてはご健勝のことと存じ上げます。

さてこの度、園芸産物利用学教室に大きな変化がありました。それは皆様にご存じの方も多くいらっしゃると思いますが、岡本辰雄先生が平成元年3月31日付をもって御退官されました。研究、教育、地域社会にと大きな貢献なされ、惜しまれながらの御退官でした。私共はこれを1つの節目と考え、今度は東北大学から医学博士、農学博士号をもった長山

英男先生を教授にお迎えすることになりました。事務手続き等が予定通りいきますと7月1日付で弘前大学農学部園芸産物利用学教室の教授として御就任なされます。温厚な方で紳士であり、学術報告はinternationalな御人です。酵素に関してはその分野においては世界的な権威であります。岡本先生の時代とは違う研究分野が活動することと推察されます。

助教授の原田順厚先生は今まで主に加工用リンゴの加工・利用に関して研究をなされて

いましたが今年度よりリンゴの貯蔵に関しての方面まで幅を広げ、今後の研究成果が期待されます。

助手の木村繁昭はあきもせずリンゴの脂質をあつかい、リンゴの低温障害機構を膜変性説を仮説にし、研究を進めています。今後は低温障害の早期診断法の確立、リンゴ冷蔵下におけるリンゴ脂質代謝に関する酵素も始めたいと考えております。一口で言うと post harvest の生理だと推定されます。また食

品化学の立場に立ち味噌の脂質についても研究を始めました。

ひと昔前は園化で一番、新しい機械がある研究室でしたが、今は一番貧乏な研究室になりました。お金かせぎをしなければならない時期になっています。

前述のように7月から新しい気質に研究室が生まれ変わると思います。最後に卒業生の皆様の御多幸と御健康をお祈り申し上げます。

(S. K. 記)

* 付 属 農 場 *

同窓生の皆さん、ますますご活躍のことと思います。昭和36年から農場実習を担当して頂きました森敏夫先生が今年度末に退官されることになりました。先生は29年に渡り晴耕雨読の精神をもって教育にあたられ、また農場発展のために御尽力下さいました。同窓生の方々も在学中、農家実習時に遠路巡回され励まされたり、農場宿泊実習時には寝食を共にして農学徒のあり方を御教示頂いた方も多くいます。

つきましては、先生に来る平成2年2月上旬頃、農学部で最終講義をお願いし、その後

引き続き「森先生と語る夕べ」を催して、往時を偲び楽しい一時を過ごしたいと考えております。これに御出席の御意志をお持ちの方は、7月31日まで下記にハガキまたは電話でご連絡下さい。追って詳細に御案内致します。

〒038-38 青森県南津軽郡藤崎町下袋
弘前大学農学部付属農場内
TEL 0172 (75) 3026

森 敏夫 教授 退官記念行事準備会
(菊池卓郎・村山成治・塩崎雄之輔)

教 官 人 事

退 官

元 3.31 岡本 辰夫 教授(園芸産物利用学)

新 任

63. 9. 1 藤崎 浩幸 助手(農地工学)

63.10. 1 鈴木 裕之 助教授(畜産学)

元 3.16 渋谷 長生 助教授(農業経営学)

昇 任

元 4. 1 神田 健作 教授(農産物流通論)

転 出

63. 3.31 三国 英實 教授(農産物流通論)

新しい先生を紹介します



青森市生れ。岩手大学農学部畜産学科卒，同修士修了，北海道大学大学院博士後期課程修了。昭和57年からは青森県に戻り，野辺地にあります県畜産試験場に勤務。弘前大学には63年10月に着任しました。これまでは主として家畜の生殖細胞に関する仕事をしてきました。今後とも新

畜産学講座 鈴木 裕之

しいバイオテクノロジーの手法を取り入れながら研究を進めてゆきたいと思っています。

弘前に来て初めて，青森県出身ながら，弘前の事をほとんど知らないことに気づきました。これからは弘前（津軽）の歴史・文化についての情報にも耳をそばだてていきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。



1988（昭和63）年9月に着任。1960（昭和35）年兵庫県姫路市生まれ。農地の貸借が進む状況下での圃場整備のあり方を研究しています。高校までは姫路，大学は東京で，東北は初めてですが，小学校の時に地図帳で弘前の隣に「藤崎」の地名を見つけて以来，この付近へのあこがれのような

農地工学講座 藤崎 浩幸

ものを抱いてきました。来弘後約10ヶ月，津軽弁修得への道程は遠く，甘い茶碗蒸しといった文化の違いも感じています，未体験の雪との遭遇も大過なく過ごし（暖冬のおかげ？），弘前城の桜の見事さには感動しました（城は別）。最近は日の出の早さと日の入りの遅さに緯度の差を実感しています。どうぞよろしく申し上げます。



1952年，宮城県生まれです。東北大学大学院を経て，今年3月に着任しました。これまで農業組織の管理・運営に関する分野で，とくに農協・生協の提携問題並びに農業生産組織についての研究を行ってきました。

弘前に来ましてまだ数ヶ月ですが，歴史を

農業経営学講座 渋谷 長生

感じさせるたたずまいと都市と農村が岩木山の麓に並存する落ち着いた雰囲気が大変気に入っております。

これからは青森県に根ざしながら，日本農業の将来像を見究めるために微力ながら努力してゆきたいと考えております。また農業への愛着と科学的洞察力を持つ人間養成に勤める所存です。

今後とも宜しくお願いいたします。

++++事務局のお知らせとお願い++++

その1

住所録の充実についてご協力をお願いします。現在これまでの卒業生総数 2,888 名分の会員名とその住所をコンピューターに収録し、管理することを外部の業者へ依頼しております。2年に1度の名簿作成のほか、日ごろ会員との連絡に大量のアドレス書きにかえて、メールステッカーの引出しにも利用しております。

しかし転勤や転職で住所が変更しても、事務局への届出が少ないため、発送した郵便物が「差出人宛先不明」で戻る場合が多く、郵便料の無駄づかいにもなっております。会費納入者については振替から現住所を写し出しますので確実ですが、63%の未納者の住所が不確実で空欄が多く、困っております。どのような方法でもかまいませんので、同窓会事務局宛に変更した現住所と勤務先等をご連絡下さい。

その2

平成1～2年度は総務 戸次英二（内線4752）、会計 工藤啓一（内線4663）、情報 村山成治（0173-53-2029）の体制で、総会において承認された諸事業を的確にすすめる、事務処理に当たりますので、よろしくご協力をお願いします。

その3

会報を通じて情報交換をしませんか。各地の気候話題、トピックス、あるいはアンケートなど紹介したい情報や、同窓網を活用した情報取得に同会報を利用してはいかがでしょうか。投稿をお待ちします。

その4

同窓会報の編集についてのご意見をどうぞお寄せ下さい。

